台湾に目覚めたころ

河元もと

康\$ 夫* 世界台湾同郷会連合会副会長在日台湾同郷会長



は、 校で、 にある二宮金次郎の銅像に敬礼し、 ときまで、 が日課でした。 あります。登下校時には、学校の正門のところ まり、第二次世界大戦が一九四五年に終結した ビデンシャ城(赤嵌楼)のすぐ隣にある国民学 を支配したオランダ人によって建てられたプロ た。小学校は、一六二四年、 私 内地の宮城の方角に向かって遥拝すること は一九三五年、 四年生まで当時の教育を受けました。 日本軍国時代の教育を受けたわけで 台湾・台南市に生まれまし 歴史上最初に台湾 朝礼の時に

ニカに合わせて精一杯合唱する姿が各地の街角 の人口は六百万人) ため「光復の歌」(六百万人同快楽 終戦後間もなく、 をアコーディオンやハ 台湾全島で祖国復帰を祝う -当時台湾 1 モ

> たのを覚えています。 のでした。 棒で担いでの行進だったのです。その情景を目 軍服を着、傘や布団、それに鍋の類などを天秤 隊もやってきましたが、 那敗残兵」そっくりの姿だったのに唖然とした にした瞬間、がっかりしたというより、今まで 人達は威厳もなく、 で見られました。 **『少年倶楽部』や漫画本に掲載されてきた「支** 同時にその漫画家の描写力に感心し やがて中国の国民党政 規律もない上、 目の辺りにするその ぼろぼろ 府 0 \tilde{O} 軍 軍

事件、 はびこり、秩序は崩壊し、 たことは周知のとおりです。 陳儀・台湾省行政長官時代は腐敗政治 白い恐怖 赤 いテロなどに発展していっ やがて事態は二二八 が世

昭和三十一年一月、

私は日本に留学したので

図書館を利用したものです。ある日、偶然に図宿にいると寒いので、よく九段下の千代田区立帳がないと米が買えない時代でした。休日、下すが、当時の日本はまだ米が配給制度で米穀通

怖心から、結局中に入る勇気がありませんでし務スパイが見張っているかもしれないという恐口まで覗きにいきましたが、どこかで国民党特国臨時政府総会の案内文が目に入り、二階の入書館入口の掲示板に貼られた廖文毅の台湾共和

識するようになりました。 やにあった漠然とした台湾像がはっきりと形に中にあった漠然とした台湾像がはっきりと形に中にあった漠然とした台湾像がはっきりと形に中にあったのですが、このとき以来、自分の心の 障され、

集会の自由が認められた国であること

た。このとき初めて日本は真の言論の自由

が保

を認識し、羨ましく思いました。

始め、世界台湾同郷会連合会の会長だった郭栄がありました。中学時代の恩師、王育徳先生を勤務中、いろいろな同郷の先輩諸氏との出逢い卒業してからの職場は東京警察病院でした。

命を惜しまない面々であります。人たちは皆台湾の将来を憂い、台湾のためにはと戦った台湾人の郭雨新先生などで、これらの店氏、総統選挙で蔣介石の対立候補として堂々

ティティについて勉強させられました。だいた影響で、私は台湾人と台湾国のアイデンのです。いろいろな人とお付き合いさせていたのことを「台湾独立建国軍の軍医」と呼んだも東京理科大学教授だった周英明先生はよく私

勢が一挙に変わり、昔日の国民党恐怖政権の再戦も辞せず」の声明。中国との急接近など、情事件では台湾の劉兆玄・行政院長は日本と「一との発言。六月の尖閣諸島海域での「聯合号」との発言。六月の尖閣諸島海域での「聯合号」との発言。六月の尖閣諸島海域での「聯合号」との発言。六月の尖閣諸島海域での「聯合号」との発言を表している。

て一日も早く真の台湾主権独立の国家の誕生が栄のためにも頑張らなければなりません。そし大切な故郷であり、国でありますから、日台共

来かと心配する人もいます。

来る日を=